

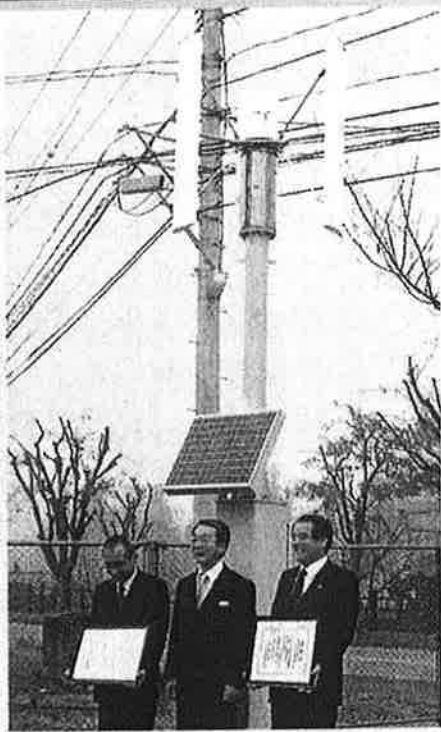
万世小(※)にすごい贈り物

風力発電装置

環境学習役立てて

中央道建設 企業体から 太陽光パネルも

米沢市の万世小(牛沢敏宏校長、三百十四人)に、東北中央自動車道の建設現場で使用された風力発電装置が寄贈され、贈呈式が二日、同校で行われた。太陽光発電装置を備えたハイブリッド仕様で、同校の環境教育の充実に役立てられる。



校門近くに設置された風力発電装置の前で記念撮影する関係者
米沢市・万世小

寄贈された風力発電装置は、栗子トンネル(仮称)の西避難坑工事で使用いられていたもので、坑内を換気する風を利用した発電装置として活躍した。避難坑の掘削が終了したことから、地元の学校で学習に役立ててもらおうと、工事を請け負った大豊建設・矢作建設工業共同企業体が同校に寄贈した。

高さ五層の支柱の上にアルミ製の長さ一・二層の羽が三枚付けられており、風を受けて回転し、発電機を回す仕組み。秒速二―一二層の風で発電し、最大三百ワットの電力が得られる。風のない時でも学習に役

付け、校門近くに設置した。この日、大豊建設の大隅健一東北支店長と矢作建設工業の大橋薫東北支店長が同校を訪れ、牛沢校長に目録を手渡した。小学校では、二〇〇九年度から新学習指導要領への移行措置が始まり、環境教育や食育などがより重要視される。牛沢校長は「発電した電力で有機ELパネルを発光するなど、さまざまな学習に生かしていきたい」と語っていた。